

2022年度

第1回 アドバンスト入試

時間50分 100点満点

国語

受験上の注意

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 実施時間は50分で、100点満点です。時間配分に注意して解答してください。
3. 解答は解答用紙にていねいに記入してください。
4. 解答用紙・問題用紙両方に、受験番号、座席番号、名前を記入してください。座席番号は、机に貼ってある番号のことです。
5. 試験中は携帯電話の電源を必ず切ってください。
6. 私語や物の貸し借りなどは認めていません。困ったことがある場合は、手をあげて先生に相談しその指示に従ってください。

受験番号 _____ 座席番号 _____

名 前 _____

聖学院中学校

部のカタカナを漢字にしなさい。

- 1 美術の授業でジガゾウを描く。
- 2 白いシャツにコーヒーのシミが残ってしまった。
- 3 ジュモクの種類を見分けながら山道を歩く。
- 4 オオムギは味噌みそや醤油しょうゆの原料になる。
- 5 チョッケイ5センチメートルの円を描く。
- 6 織田信長は天下統一の拠点きょてんとして安土城をキズいた。
- 7 半世紀以上続いた雑誌がついにキュウカンした。
- 8 チョウドよい大きさの板を見つけた。
- 9 選挙のカイヒョウ速報を見る。
- 10 算数の授業でカブンスウの計算方法を学んだ。

② 「アブダラくん」はパキスタンから来た転校生で、イスラム教徒です。同じクラスの「ぼく（ハル）」は、アブダラくんの世話役に任命されました。イスラム教のお祈りや食事など、日本の学校の習慣とのちがいを調整するためにハルは何かと苦心しますが、当のアブダラくんはいつもマイペースで、ハルが何かをしてあげてもそれを当たり前だと思っっているようです。ハルはアブダラくんに不満を感じ始めました。次の文章は、そんなある日の放課後の場面です。

※この問題では、本文を前半と後半に区切って、それぞれの場面ごとに出題してゆきます。

〈前半場面・本文〉

アブダラくとふたり、気まずくだまりこんだまま、*あんとまぎー教室にむかう。

アブダラくんは、いつもと変わらない無表情。どうせ、気まずいなんて思ってるのは、ぼくだけだろうけど。

いったんムカつきはじめると、例のモヤモヤが胸の中にたまっていつて、イラついてしょうがない。

二階のうちのクラスから、四階の元用具室に行くだけの道のりなのに。うちの学校の廊下、こんなに長かったっけ？

あんとまぎー教室のドアを開けると、いつものようにコーヒーの香りのする風がふいてきた。紫髪を整髪料でツンツンにした*ネコスケ先生が、イスで行儀悪く足を組んで、ぼくらを待っている。

「お、きたな」

目じりにしわをよせて、にっと笑う。

立ち上がって、のびひとつして、授業スタート。

アブラダくんはいつも、前列の右の席にすわる。ぼくはうしろの左の席にすわる。

授業をしているときのネコスケ先生は、意外にもけっこうマトモだ。

『こどものほんご1』という教科書と、教具のポスターをつかって、いろんな場面をつかう日本語のフレーズを勉強している。今日の学習テーマは、「かいものごっこ」と「これをください」。

「文房具店にきました。どんなペンがありますか？ その赤いペンはいくらですか？ ペンは百五十円、ノートは百円です。これをください……」

ネコスケ先生の授業は基本的に日本語で行われる。アブラダくんは、真剣しんけんに授業をきいて、ときどきウルドゥー語で質問をして、一心不乱にノートをとっている。

アブラダくんは左きき。

ノートには、ぎこちないひらがなと、みみずがダンスしてるような文字が交互こつてにおどる。あれが、ウルドゥー語の字なのかな。

ぼくはといえば、*ななめうしろの席で、ひたすらかぎ針編みをしている。

今日つかっているのは、お気に入りのサーモンピンクの並太毛糸なみふとけいとだ。百均ひゃっきんで買った五号のかぎ針で、花のモチーフを編んで

いく。最初にこま編み。つぎにくさり編み。それから、ちよつとむずかしいパプコーン編み。

毛糸をかぎで引っかけて、くぐらせて、引きぬいて……。

ひと目ひと目、心をこめて編んでいるうちに、作品づくりに夢中になる。

このときだけは、*家族のことも空手のことも忘れて、ぼくは毛糸と一対一。

いつも開けっぱなしの窓から、風がふきこんできて、ぼくの顔をそつとなでる。ふと現実にかえって、ちらりと、ななめ右

前の席を見る。アブダラクんのつやつやした*天。パが、風にそよいでいる。

——忘れていたムカムカがよみがえる。

なのに、アブダラクんを見てしまう。どれだけ腹が立つても、気になるのは、気になる。それがまた腹立つんだよな。

〈後半場面へ続く〉

【注】

*あんとまざー教室：用具室だった部屋を改装してできた日本語教室。日本語を教えるだけでなく、外国人の児童が学校に
なじめるように学校生活全体のサポートも行う。

*ネコスケ先生：アブダラクんの転入にともなって区から派遣はけんされてきた日本語支援員しえんいんけん兼多文化共生コーディネーター。「ネ
コスケ」は副業の編み物作家としての名前。その世界ではまぼろしの作家として知られていて、密かに編み物に熱中している
「ハル」にとつてあこがれの存在だ。

*ななめうしろの席でひたすらかぎ針編みをしている。：「ぼく」は、アブダラクんの日本語学習を待つ間、編み物をす
とを許可されている。

*家族のことも空手のことも忘れて：「ぼく」は父の導きで幼少時に空手を習い始め、すでに有段者だが、本心では空手より
も編み物を優先したい。しかし、両親が分かってくれる見込みみこが全く持てず、どうしたらよいのか悩なやんでいる。

*天。パ：生まれつき縮れている髪の毛のこと。

〈前半場面・問題〉

問1 あんとまぎー教室にむかう廊下で「ハル」はイライラしているが、その理由は何か。適するものを次から選びなさい。

- ア 「ぼく」は苦勞してアブダラクンを助けてあげているのに、アブダラクンは「ぼく」に全く感謝かんしゃしていないようだから。
- イ 「ぼく」はいろいろな悩みわかごとを抱えてつらい気持ちなのに、アブダラクンはいつも氣樂そうにすごしているから。
- ウ 「ぼく」は早く家に帰って自由にしたいのに、アブダラクンのために退屈たいくつな授業に付き合わなくてはならないから。
- エ 「ぼく」がアブダラクんと友達になろうと努めているのに、アブダラクンは「ぼく」に無関心な様子だから。

問2 日本語の授業中の様子について、次の問いに答えなさい。

- (1) 「アブダラクくん」はどのような心構えをもって日本語学習に取り組んでいるか。
- (2) あなたは(1)の答えをどの一文から読み取ったのか。最初の十字をぬき出しなさい。
- (3) 「ぼくは毛糸と一対一」という言葉からどのようなことを読み取ることが可能か。あなたが読み取ったことをくわしく説明しなさい。

①授業の小休憩中、めずらしく思いつめたような顔をしたアブダラくんが、机の前に立ちはだかった。くつきりとした発音で、ぼくの名前を呼ぶ。

「ハル。なにが」

「……なにがって……なんだよ」

ぼくは、あいまいにごまかした。まず話しかけられたことにびっくりしたし、ありがとうって言ってほしくてムカついているなんて、さすがにはずかしくて口に出せない。

アブダラくんは、もどかしそうにまゆ根をよせる。

「いいいます。これをください、ぜんぶ」

授業以外ではじめてきいた。アブダラくんの日本語。

——なんでもいってくださってこと？

今日やってたフレーズ、さっそくつかってる。おどろいたけど、つい、いやみったらしくいってしまった。

「だって、いってもわかんないだろ。人にさんさん世話になつていて、ありがとうのひとつもいえないようなやつ」
「いったとたん、自分の口を押さえつけたい気分になった。」

結局、いってんじゃない。

「ハル」

アブダラくんが、こまった顔でぼくを見てる。

……そんな顔もするのか。

ほっぺたが熱い。ぼくって、こんなにイヤなことを人にいうやつだったっけ。

前の机でスケジュール帳に目を通していたネコスケ先生が、めんどくさそうにぼくを見て、それからウルドゥー語でアブダラクんに話しかけた。

②それをきいていたアブダラクんが、意外なことをきいたというように目をみはった。何度も口を開きかけてはやめる。しばらくしてから、観念したかのように、きれいな形の唇くちびるから、流れるようなウルドゥー語が飛び出した。

ネコスケ先生がさらりと通訳してくれる。

『ごめん。そんなの気にしてると思わなかったんだ。ぼくは、ハルのためにできることはなんでもする。ほんとになんでもだ。だって、ハルがそうしてくれてるから。それが友だちだ。でも、ぼくは、ハルから「ありがとう」はききたくない。だって、当たり前のことだから。お礼なんて、友だちじゃないみたいだ』

ぼくはあんまりおどろいて、ポカンとしてしまった。

——そういう考え方もあるのかあ。

パキスタン流？ それともアブダラクん流？

小さなころから、なにかもらったり、してもらったりするたびに親に「ありがとうは？」といわれてきたぼくには、③目からうろこだ。

要するに、友だちだと思ってるからこそ、お礼なんていらなくてことだよ。口だけの「ありがとう」じゃなくて、なにもいわない、無言実行型の「ありがとう」なんだな。

ぼくは、ありがとうがあったほうがうれしいけど、とにかくアブダラクんはそう思ってるってこと。

(とううか、ぼくらって友だちだったの？ いつから?)

あんなにこわい目つきで、何度にもらんできたくせにさ。

アブドラくんは、ぼくをびつくりさせる名人だ。

同時に、④心の中にわだかまっていたイヤな気持ちが、じわりと溶けていく。

ぼくって単純……。

アブドラくんが考えてることがわかるだけで、こんなにホツとしてる。

思ってることを伝えてくれたいまは、なにをそんなに怒ってたんだろうって不思議に思うくらいだ。

冷静に考えたら、みんなと同じ給食食べてないの、アブドラくんだけじゃなかった。アレルギーのある彩^{あやの}乃^のだって、お弁当を持ってきてる。

みんなはしないけど、小吉は毎日おかわりする。

一人ひとりが、ちがうんだ。

ぼくは、アブドラくんは「ふつう」じゃないって、腹を立ててたけど……。

よく考えたら、どうして「ふつう」じゃないといけないんだろ。そんなこといいだしたら、ぼくだって、あんまり「ふつう」じゃない。だって「男のくせに」、こっそり編みものなんて、やってんだから。

(だからこそ、口に出して相手に伝えるって、だいじなのかも……)

そんなことを思っていると、アブドラくんが、真剣な顔つきで、ぼくにむかって手を差し出す。え、握^{あくしゅ}手?

うわあ、映画かよ。なにやってんだアブドラくん!

はずかしすぎると思いながら、しばらくして、ぼくは手をにぎりかえた。

「シユクリア。ありがとう」

「……シユクリア」

アブダラクンの言葉をそのままくりかえしたぼくに、てれくさそうに小さく笑う。

くすぐったい響ひびきのウルドウー語。きつと、ありがとうって意味なんだろう。

たぶん、アブダラクンはこれから、ありがとうをいつてくれる気がする。ぼくも、これからは、いちいちお礼をいわれなくてもそんなに気にしないとと思う。

……なんか、ばかみたいにてれくさい。

ぎこちないし、ノリも空気もくそもない。でもわりかし気分がいい。

アブダラクんと、もつといろんなことを話せたらいいのにな――。

ネコスケ先生は、机にヒジをつけて、ニヤニヤしながらぼくたちをながめている。楽しそう。ぼくたちが、コーヒーのお供にでもなった気分だ。

（黒川裕子「となりのアブダラクン」）

問3 ——— ①のように、「アブダラクくん」は「ハル」の机の前に「思いつめたような顔」をして立ったが、この時「アブダラクくん」の心の中でどんなことが起こっているか。適するものを次から選びなさい。

- ア 日本語は難しくてみんなとうまく話せないし、友だちもできない。ハルは自分のことでイライラしていて頼みづら^{たの}いけれど、日本語でもっと話しかけてほしいとお願いしなければならぬ。
- イ 授業中、ハルにななめ後ろから自分をジロジロ見られてとても気になった。いつも世話をしてくれるハルに文句を言いたくないが、やめてほしいと言わなければならない。
- ウ ハルが口をきいてくれなくなったのは、きっと自分がハルに迷惑^{めいわく}をかけているせいだ。これまでははずかしくて謝れなかったけれど、やはりしっかりと謝らなければならない。
- エ ハルがどうしてイライラしているのか分からないが、原因は自分にあるようだ。きっとハルは自分に言いたいことがあるはずだから、自分はそれを聞かなければならない。

問4 ——— ②のように、「アブダラクくん」は大きな衝撃しょうげきを感じている様子である。「アブダラクくん」の心の中でどのようなことが起こっているか。適するものを次から選びなさい。

ア 自分のために親切にしてくれていたハルが、とうとう意地悪な本性を表した。ハルがどんな人間なのか確かめなければならぬ。

イ ハルとは何でも話せる親友だと思っていたのに、自分はハルにがまんをさせてしまっていた。親友の気持ちも分からない鈍感どんかんな自分がはずかしい。

ウ 知らず知らずのうちにハルに迷惑めいわくをかけていたなんて思いもしなかった。でも、ハルがやっと自分に本心を打ち明けてくれてうれしい。

エ 日本では、世話になった時には友だち同士でもお礼を言うなんて知らなかった。ハルがどうしてイライラしていたのがやっと分かった。

問5 ——— ③について、「ハル」にとって「目からうろこ」だったこととは、どのような内容を指しているか。具体的に答えなさい。

問6 ——— ④について、「ハル」の心から気まずさやモヤモヤが消えていったが、これは二人がどのような行動を起こしたから生まれた結果だろうか。「ハル」と「アブダラクくん」が起こした行動をそれぞれ簡潔に答えなさい。

問7 「ハル」はこの出来事を通して、いくつか大切なことを学んだ。このことについて次の問いに答えなさい。

(1) 「ハル」が学んだことのうちで、あなたが最も大切な学びだと感じることは何か。

(2) あなたがこのクラスの一員だったとする。あなたは「ハル」からこんな相談を受けた。「ハル」は、あなたが(1)で答えた学びはとても大切だから、クラスのみんなにもよくわかってもらいたいと言うのだ。そして、あなたは「ハル」の提案に大賛成である。あなたの学びをクラスみんなのものにするための方法を考案し、説明しなさい。なお、あなたが考案した方法のすぐれた点が分かるように説明すること。

③ 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

筆者は日本からデンマークの福祉・医療・教育などに関する研修をしばしば受け入れている。研修の参加者が筆者の学校で食事をする際、いつも感じることもある。学校では通常、大きな水差しとコップ、取り皿がテーブルにまとめて置かれている。それぞれが注いで飲むのだが、①日本人の場合、1人か2人が、全員分のコップに水を注ぐようにする。

休憩時間でも、コーヒーのボトルが立っていようものならば、同じようにコーヒーか紅茶をたちまちコップに注いでくれる。

その場合、本人の意思を確認することもあるが、確認することなく自動的に注ぐこともしばしばだ。こうした行為をみると、ああ日本的だな、と思ってしまう。

決してこの行為は日本でもデンマークでも悪いことではない。人に注がれば労力が省けるわけで、楽、の一語に尽きる。感謝されこそすれ、非難されるいわれはない。②しかし、私はあえて「？」としたい。

第一に、注がれた人はそもそも水を欲していただろうか。みなに均等にしっかり注がれた分量は全員が欲していた量だろうか。それより少ない量で十分という人がいなかっただろうか。ましてや、飲みたくなかった、という人はいなかったのだろうか。

そうかといって、注ぐときにいちいち全員に「飲みますか」「どれぐらいの量ですか」と聞くのはいかにも面倒くさい。1人2人ならまだしも、ある程度の人数であれば、聞くなんてよもややっていられない。

こう考えてくると、「注ぐのはいいことだ」とばかりに勝手に注ぐ行為は、相手の意思を尊重せず、かつ非経済的な行為とならないだろうか。それぞれが自分で注げば、早く、かつ適量を飲むことができる。

第二に、注ぐことによって、無理やりそのグループへの帰属を強いてはいないだろうか。③「が無条件によいものと考えている日本人にとって、こうした行為が相手に強い圧迫感あつぱくというものは考慮こうりよの対象にはならないものである。注ぐことは、日本では、相手への思いやりというだけではなく、それをしなければならぬ、という半ば強制的な*共同体意識がなせるわざでもある。

一方デンマークでは、勝手に注ぐことは想定外の出来事であり、「え、なんで」という気持ちで感謝すらされないこともある。

そうはいつても、注がれることを拒否きよひした場合、日本では、仲間外れに陥おちいる危険がある。④注ぐことは日本では仲間であることの確認きんしきの儀式にもなっている。

話は少しさかのぼるが、20年前にフランスで廃品回収はいひんのボランティアのサマーキャンプに参加していたことがある。若者中心で、みなが寝食しんじよくをとにもする。食事はテーブルの上の大皿をみなで回して取って食べる。筆者はいつも、水を全員のコップに注ぎ、取り皿を隣りへ回したりするのを特に聞きもせず自動的にやっていた。筆者もこのころは、注ぐ行為はしなければならぬ、と半ば強迫観念きょうぱくげんまで持っていた。生粋きんすいの日本人日本人だった。

すると、⑤それをみたエストニア人の9歳きいの少年が「Excellent Service (優秀なサービス)」と皮肉くわいにくっぽく笑った。

衝撃しょうげきだった。正直、日本人の美德をすべて否定された気分になった。なんでそういわれたのか分からなかった。だが、後々よく考えてみれば、本人の意思も確認することなく、水を注いだり、取り皿を回したりした行為は明らかにヨーロッパでは行きすぎだった。自分でほしいものは自分で意思表示して手に入れる。これこそが国際標準なのだ。

もちろん、国際標準がなんだ、とわが道を日本人は突き進んでもいい。水注ぎの例を出したが、実はこんなことは些細ささいなことでも本当はどうでもいいのである。

しかし、水注ぎのような半強制的かつ非経済的お仕着せ行為が、日本の社会にはあちこちでみられないだろうか。必要ない、いやだ、と思いつつも相手に押しつけ、相手も同じく、必要ない、いらぬ、と思つても受け取ってしまう。

「相手はなにもいっていないけれど、いまこれを相手にしてあげておかなければ、あとで私の責任のようにいわれてしまう」
なんとこのお仕着せは、しなければしないで自分の責任論にまで発展してしまうのである。

行政サービスにあてはめれば、「そこに権利があるから」と必要性もないところにどんどんお金が回る。役人は「回しておかなかつたら、あとで俺が文句をいわれる」と目をつぶる。権利を持つ者も、いらぬよ、と思いつつも、もらえるものはもらつておこう、で一件落着。こうしてどんどん、意味不明な施設や高速道路、空港が建つていく。

なんと無駄の多い国だろうか。これでは本当に使われるべき場所に必要なお金もなにも回らなくなつてしまう。

賢明な読者はここまでで、すでにお分かりだろう。日本の社会を不健全にしているのは、「相手を慮る」という大義名分を掲げた「自己決定」の慣習である。

日本では他人が自分のことをどんどん決めていく。中学高校では、制服から校外での活動にまで校則が幅を利かし、進路先も気付けば親や教師が決めている。大人を対象とすべき大学も、いまの学生は幼いから、と高校並みの学則が存在し、手取り足とり就職支援。高齢者は世を渡ってきた「つわもの」であるにもかかわらず、施設に入れば、喫煙も飲酒も健康に悪いからと禁じられる。

他者が敷いたレールに乗って生きていくことはたやすい。しかし他者が決めることに慣れてしまえば、人間は考えることをやめてしまう。自分でなにも決めずに、ただ生きているだけの人生になんの価値があるだろうか。

日本人はもつと「自己決定」をすべきなのである。そして、他人の自己決定の原則を尊重し、他人の決定に口出しすべきで

はない。⑥自己決定の効能は、能動的となることである。決定には、自分で考えなければならぬ。考えるための情報を集めるには、視野を外へと広げなければならない。すると、外部への関心も高まっていき、外部への働きかけもはじまる。

さらに、自己決定の裏には常に自己責任が伴う。これはときにハードかもしれない。自由とは、慣れていない者にとつては、不安定な状況へと陥りがちだ。しかし結果はすべて自分のものであり、そうした結果を予測して受け止めることで、後ろ向きに踏みとどまるのではなく、前へ進む力にもなる。

（錢本隆行「デンマーク流『幸せの国』のつくりかた」）

【注】

* 共同体意識：同じグループの人たちを他人ではなく仲間としてとらえ、仲間のために貢献しようと互いに気にかけること。

問1 ——— ①のように、日本では一人か二人が同じテーブルについている全員分のコップに飲み物を注ぐことが多い。注ぐ人は、どのような思いに基づいてこれをしているのか。適するものを次から選びなさい。

- ア みんなの飲み物を注ぐなんて無駄だとみんな思っているが、古くからの習慣を破るわけにもいかない。
- イ 自分が率先して注ぐことは、みんなが望んでいることであり、むしろ、それをしない方が非常識だと思われる。
- ウ できれば誰かに注いでほしいが、自分が注がなければだれも注ごうとしないだろうから、自分が注ぐのは仕方がない。
- エ みんなの飲み物をいち早く注いでやれば、周囲への気づかいはできる優れた人物として注目してもらえるだろう。

問2 ——— ②について、「私」はこの行動のどのような点に問題を感じているか。適するものを次から二つ選びなさい。

- ア 食事や休憩の時間ぐらいリラックスすればいいのに、周りの人に気をつかいすぎている点。
- イ どれくらい飲みたいのか、飲みたくないのかを本人に確認せずに注いでしまう点。
- ウ 注がれた飲み物を受け取らせることで、グループの一員としてふるまうことを暗に強いている点。
- エ テーブル上の飲み物はみんなのものなのに、まるで自分のもののように勝手に扱っている点。
- オ せっかくながら同じテーブルについているのに、一人一人の本心のちがいを際立たせてしまう点。

問3 ③ にあてはまる言葉を次から選びなさい。

- ア みなで一緒に
- イ みなそれぞれに
- ウ うちのうち、よそはよそ
- エ 人に迷惑をかけない

問4 —— ④ 「注ぐことは日本では仲間であることの確認の儀式にもなっている」とはどのようなことか。適するものを次から選びなさい。

- ア テーブルの飲み物を注ぎ合う行動は、日本独特の習慣を表す行動として世界で広く知られている。
- イ 飲もうと飲むまいと、飲み物を注ぐ行動を通して、互いが一緒に物事を行う間柄である^{あいだから}ことを確かめている。
- ウ 同じポットに入った飲み物を分かち合うことに、宗教的な意味をふくませ、心の結びつきを強めている。
- エ 飲まない飲み物を注ぎ合うことに意味がないとわかっていながら、古くからの習慣として守っている。

問5 —— ⑤ について、この「エストニア人の9歳の少年」は、食事のテーブルについた時、どのようにふるまうことを当然だと思っているか説明しなさい。

問6 —— ⑥について、文章の最初に紹介された「日本人が進んでみんなのコップに水を注ぐ」行為は、「自己決定によって起こる能動的な行為」と言えるか、言えないか。どちらかを選び、その理由を説明しなさい。

問7 本文に照らして、問いに答えなさい。

あるクラスでは放課後の掃除がうまくできていない。おしゃべりをしたりふざけたりする人がいて、掃除に時間がかかったり、掃除が不十分だったりする。この状態を改善するため、美化係の生徒たちがクラス会議にある提案をした。提案の主な内容は「掃除中の不必要な会話を禁止し、違反者に罰を与える」というものだった。本文の内容をふまえ、この提案に対する反対意見を述べなさい。なお、反対意見の根拠となる言葉・文を本文からぬき出しなさい。

3							2							1					
問7		問6		問5	問4	問3	問2	問1	問7		問6	問5	問4	問3	問2		問1	6	1
根拠	意見								(2)	(1)	ア ブ ダ ラ く ん	ハ ル			(3)	(2)	(1)		
																		7	2
																		8	3
																		9	4
																		10	5

受験番号
座席番号
名前

2022年度

第一回 アドバンスト入試
入学 考 査 問 題

国語・解答用紙

聖 学 院 中 学 校